

ワイヤレスブロードバンド実現のための周波数確保等に対する意見

意見提出元	(株) テレビ東京
-------	-----------

意見項目	意見内容
(1)ワイヤレスブロードバンドの今後の展望(2015年頃や2020年頃のワイヤレスブロードバンドのサービスイメージ、システムイメージなど)	
(2) ワイヤレスブロードバンドを実現するための課題(周波数の確保、国際標準化・研究開発の推進、利用環境の整備)	<p>放送事業者はワイヤレスブロードバンド実現のための周波数確保に協力している</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周波数再編アクションプランに示されたとおり、「地上デジタル放送のデジタル化に伴う空き周波数の有効利用」としてVHF帯70MHz、UHF帯60MHzの計130MHzの帯域を地上デジタル放送化により明け渡す。UHF帯ではITSの他に携帯電話等の移動通信に割り当てる方針が示されており放送事業者はワイヤレスブロードバンドの周波数確保に大きく貢献していると認識している。
(3) 関連する国内外の動向と課題	<p>UHF帯の周波数利用について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(2)で述べたUHF帯(710~770MHz)に隣接した770MHz~806MHz帯では800MHz帯FPUや特定ラジオマイクが放送事業用周波数として割り当てられている。放送事業者と特定ラジオマイク利用者連盟は日常運用調整しつつ周波数を共用しており電波の有効利用を実現しており、隣接帯域に新規ワイヤレスブロードバンドシステムを導入する事により今後の共用関係に障害を与える事のない様、強く要望する。 ・一部の論調に番組中継はSNG等の衛星回線による伝送で充分といった意見があるが、放送事業者は電波の特性を理解した上で番組制作上最適な回線(800MHz、6~7GHzのFPU、衛星)を使い分けて放送を行っている。800MHz帯FPUはロードレース等の移動中継に限らず各種の番組制作上欠かす事の出来ないシステムである。さらに現在技術開発の完了した高度化FPUが制度化さ

	れれば HD 番組中継制作上、従来以上に貢献してくれるものと考えている。
(4) その他、将来のワイヤレスブロードバンドによるサービスやシステムに関する事項	